

動物の残した生活の跡は自然からのメッセージ —子どもとつくる、動物の紙粘土「うんこ」と足形スタンプ—

望月 義勝

(ひとはく連携活動グループ東中国クマ集会)

動物たちが生活の中で残す足跡・うんこ・爪痕などの「生活の跡」の特徴を学べば、そこから動物の生活を想像することができる。そこで、「足形スタンプ」や「うんこの模型」づくりを通して、野生動物をもっと身近に感じ、野生動物のみならず自然一般への興味を喚起することを目的として、「フットプリント講座」および「うんこ学講座」を実施しました。また、東中国クマ集会が行っている他の活動も合わせてご紹介します。

【フットプリント講座】

開 催：2004年5月16日、2005年5月15日

参加対象：小学校低学年～高学年、小学生を持つ家族

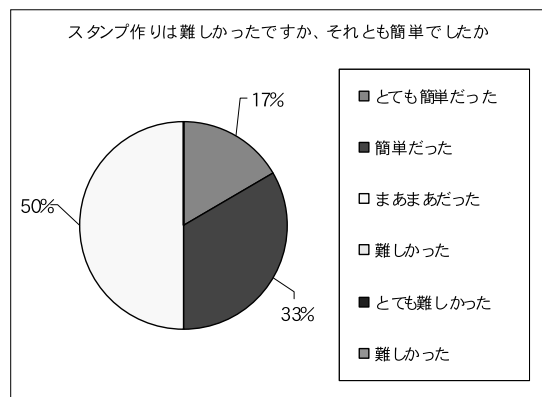
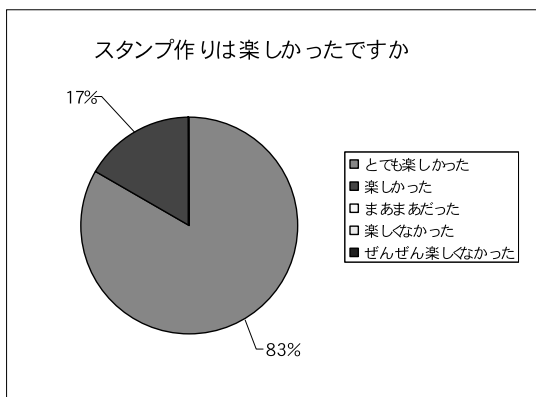
内 容：

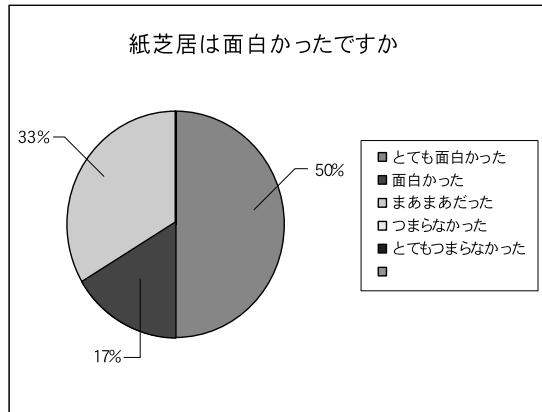
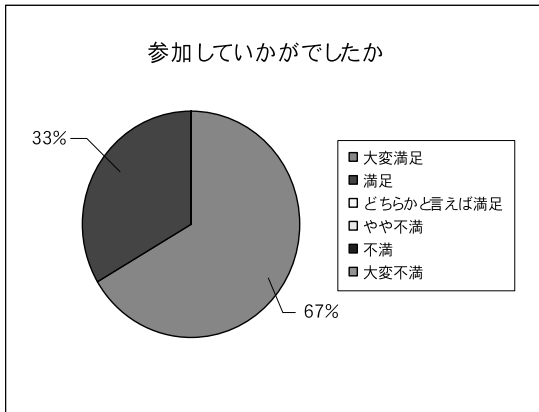
- ・ツキノワグマなど哺乳類の足跡のそれぞれの特徴のお話
- ・ゴム版にツキノワグマ・タヌキ・キツネ・シカなどの足型を彫り、木版に貼り付けスタンプを完成
- ・完成したスタンプの試し押し

当日のようす



参加者アンケート





感想

- ・紙芝居、スタンプ作りに熱心に集中している子供たちに関心しました。がんばって作ったスタンプをその場で押してみるのには子供たちにも満足感があるのではと思います。
- ・熊との共生問題はとても難しいと思います。でも大事な事だと思いますので、少しずつでも何か出来るといいと思います。
- ・足跡は見るということがないので楽しかった。家に犬（ゴールデンレトリバー）がおりますが、よく見たことがないなと気づきました。足型を採ってみようと思います。

【うんこ学講座】

開 催：2004年8月15日、2005年8月17日

参加対象：小学校低学年～高学年、小学生を持つ家族

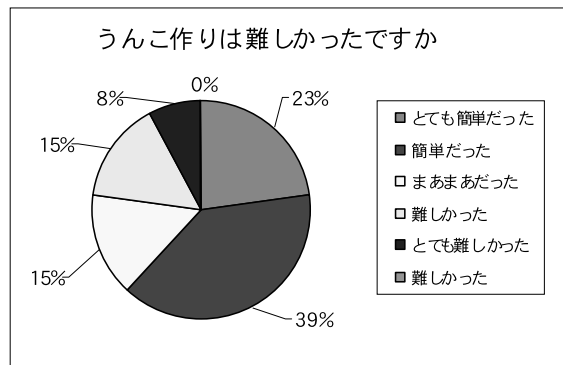
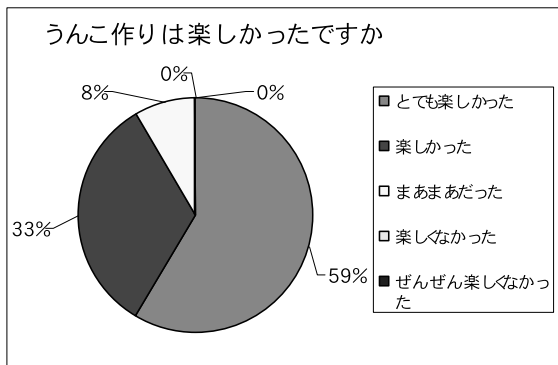
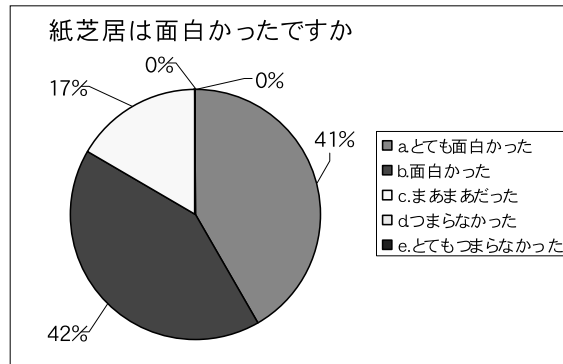
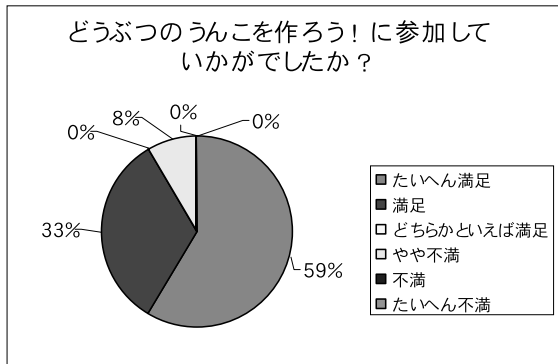
内 容：

- ・ツキノワグマをはじめとする哺乳類の「うんこ」の特徴の話
- ・針金を芯にして新聞紙を巻きつけ、その上から紙粘土を巻きつけ、乾燥させ色を塗って完成

当日のようす



参加者アンケート



感想

- ・動物（人間を含め）は皆うんこをすることに改めて感動しました。また、くさくて近寄りがたいうんこ、うんこを作ってみて、自分の知らない動物のうんこに自分の手で触れたことで自然の広さを学びました。
- ・本物そっくりに出来るので驚きました。
- ・見ていないようで子供も意外にうんこの様子をよく知っていて驚きました。
- ・子供は大変喜んでます。初めてうんこに関心を持ったのかも知れません。有難うございました。
- ・うんこを作りながら、いろいろな疑問についてこどもと話しが出来ました。

【クマ学習会】

東中国クマ集会では、ツキノワグマの足跡の模型、糞の模型、爪痕の模型、頭骨標本、紙芝居などを使って、ツキノワグマの生態や身体的特徴などについて多くの人に知ってもらうために「クマ学習会」を行っています。現在までに、兵庫県、鳥取県、広島県、東京都の3県1都の小学校、中学校、公民館、動物園などで13回の学習会を実施してきました。昨今問題となっている、ツキノワグマの集落への出没および人身事故を防ぐためには、こういった教育普及が重要であると考えています。

「クマ学習会」実施の様様



【柿もぎツアー】

ツキノワグマが集落内へ入ってくる要因となっている「柿」を、早期に収穫することにより集落内への出没を予防するイベント「柿もぎツアー」を2003年より2005年までの3回行ってきました。1泊2日の行程で、実際にクマが出没する集落に入り、クマと出会うかもしれないという生活環境を体験してもらいながら、クマについての勉強会や地元住民との交流など盛りだくさんの内容で、参加者にとっては野生動物問題についての関心を高めていただく良い機会となっています。



【東中国クマ集会の今後の活動とまとめ】

今後、東中国クマ集会は、「教育普及」を活動の中心に据えながら、野外におけるフィールドサイン調査、聞き取り調査なども継続的に行い、会員の自然に対する知識の向上と自然保護活動の考え方に関する議論を深めることにより、教育普及活動の質を引き上げ、自然に対する興味と保護に対する参加意欲を持つ人が増えるよう努力していきたいと考えています。